

## 多自然川づくり取組事例

タイトル : 一級河川日野川水系野上川での河川整備における工夫		
水系 / 河川名 : 一級河川日野川水系 / 野上川	河川分類 : 中小河川	
河川の流域面積 : 48.3	整備計画流量 : 130m <sup>3</sup> /s	セグメント : 1
事業 : 河川改修	事業開始年度 : 平成25年度	
目標設定 : 定性的	段階 : D(実施・施工時)	
課題・目的(主な) : 流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全、縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な) : 掘削(河床)、護岸整備、魚道、落差工、帯工等の整備、管理用道路の整備		
配慮事項(主な) : 河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催		

### 背景・課題、目標設定

#### <背景>

野上川の河川改修区間の河川空間は、河川景観として保全すべき天然の露頭岩を利用した落差工及び特別天然記念物であるオオサンショウウオやヤマメなどの水棲生物が棲息する良好な河川環境である。

一方、平成23年豪雨時の出水により河床低下や溢水寸前まで水位が上昇する等、地域の住民からは河川改修が望まれていた。

#### <課題>

背後地には住家、県道や優良農地があり河道拡幅による余裕を持った河川環境の創出や多自然川づくりが困難な状況の中、必要な流下能力を確保しつつ、良好な河川空間の保全や水棲生物等への配慮が必要である。

#### <目標>

既存の河川の制約条件に応じた河川改修と河川環境及び生物移動環境の両立



### 取組内容・対策例(1/2)

特別天然記念物であるオオサンショウウオに配慮した魚巣ブロックの配置



## 取組内容・対策例(2/2)

河川景観及び生物移動環境を確保するため岩盤を利用した緩傾斜落差工と魚道を計画



## モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

- ・河床低下等が発生し、魚巣ブロックに水が入らない箇所が発生しているため、寄石等による新たな棲息空間の創出を検討する。
- ・配慮生物であるヤマメやオオサンショウウオの棲息状況の確認ができていない。一方で常時の確認作業は困難であるため、大学等も含め関係機関と連携したモニタリング体制の構築を検討する。
- ・竣工後のモニタリング手法や頻度等を明確化することができておらず、他県等での事例も参考に課題解決に努めていく。

## &lt;アピールポイント&gt;

- ・魚巣ブロックの配置にあたっては、オオサンショウウオの保全を所管する伯耆町教育委員会と専門家とで合同で現地確認を行い、配置計画に反映させた。
- ・既存の露頭岩を活用した緩傾斜落差工を計画しつつ低水路(魚道工)の設置には露頭岩に段切を設けて水棲生物の移動の容易性を確保する等、既存の河川空間にマッチした環境施設の保全と棲息生物の移動に配慮した設計・施工を行い、河川改修と河川環境及び生物移動環境の両立を図った。

## 備考